

平成 19 年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 言語系(英語)教育講座、
氏 名 前 田 一 平

プロジェクトの名称	英語学習の「場」の創造とその支援システムの開発 —英語科教育コースにおける英語学習文化の確立をめざして—	配分予算額 756,000 円
プロジェクトの概要	言語系(英語)教育講座では、英語科教育コース学生の英語力育成のためにカリキュラムや授業といった英語学習環境の「ハード面」の充実を図ってきたが、それとは裏腹に、学生個々人の系統的な英語学習や学生間の学び合いの姿勢といった「ソフト面」の育成が十分になされてこなかったと分析している。そこで本プロジェクトでは、英語学習状況をソフト面から編み直すための「場」を設置し、学生の英語学習を支援していくシステムを構築することを通して、英語学習の「場」を介して学生個々人の英語学習を系統づけること(タテの関係の構築)及び学生同士をつなぎ合わせること(ヨコの関係の構築)によって、英語科教育コースに英語学習コミュニティと英語学習文化を構築することを主要な目的とし、次のような取組を行った。 <場1: 英語学習デザインの場合> - 英語科教育コース生の英語力の現状調査と分析、英語学習状況の実態調査、英語学習に関するニーズ分析 - 言語系(英語)講座会議における学生の英語学習に関する現状報告と方向性の検討 <場2: 学生個々人の英語学習を体系づけるための場(タテの関係を構築する場合)> - TOEIC-IPの実施(7月18, 22日及び2月20日) - 資格試験情報(公開TOEIC及び英検)のe-mailによる通知 - 段階的な英語到達目標の検討(授業科目や教育実習、卒業研究と英語力との関連づけ) <場3: 英語学習を通して学生同士をつなぎ合わせるための場(ヨコの関係を構築する場合)> - 英語学習支援広場(呼称:E-Pocket)の設置(言語系図書資料室内) - E-Pocketにおける英語学習や留学に関する情報誌の提供 - E-Pocketにおける学習教材(英語多読用図書、ラジオ英語講座、各種英語資格試験対策参考図書)の提供 <場4: 個と集団の英語学習を統合するための場(ヨコ・タテの関係を統合する場合)> - E-Pocketにおける英語資格試験対策講座の開設(7月、10月、2月:試験前10日間前後) - 英語多読プログラム講座(12月下旬)及び個別指導(12月-)。(多読用ノートの配布と英語多読用図書の貸出) - 授業におけるE-Pocketの利用促進。授業資料・参考文献等のE-Pocket配置。	
成果の概要	(1)英語学習の場を介して学生個々人の英語学習が体系づけられた。(タテの関係) 本プログラムをもとに毎年2回のTOEIC-IPテスト実施を決定し学生が自らの英語力を継続的かつ段階的に伸長していく道筋を示した。特に、2007年度第1回目のTOEIC-IPテストの受験を通して、学生に自分の英語力の現実を認識させ、教育実習や教員採用試験までの目標を意識させることができた。また、今回のTOEIC-IPテストは任意受験という形式をとった。その理由はあくまでも学生の自主性・主体性をもとにコース学習文化を培おうとしたためである。その結果、学生の受験率はコース中27-31%(大学院生含む)ではあったが、TOEIC-IPテストを橋渡しに、公開TOEICや英検を受験した学生もいた。また、今回TOEIC-IPテストを受験しなかった学生も、受験に向け学習する学生を目の当たりにし、英語学習への刺激を少なからず受けたようである。 (2)英語学習の場を介して学生同士が英語力の向上という目標のもとで結びついた。(ヨコの関係) 英語学習の場(E-Pocket)を設置したことで、学生はそこに自主的に集まり、そこで提供されている情報を利用して英語を学ぶようになった。とくに2007年度中頃は学生間に遠慮があったためか、E-Pocketの利用は断続的なところもあった。しかし、年度後半に入り、学生同士の刺激のしあい、また、教員スタッフの導きのもと徐々にE-Pocketにおける学習が定着していった。2008年4月現在ではほぼ毎日複数の学生によって利用されている。また、そこでの学びも英語学習に加え、教員採用試験に向けた集団的な学びへと発展してきている。 (3)英語学習の場を介して学生個々人の学習と学生同士の学習を統合することができた。(タテ×ヨコの関係) 上記TOEIC-IPテストと英検の受験対策講座や英語多読プログラムなどを、E-Pocketにおいて実施し、学生のあいだでお互いの英語に対する取組みや姿勢を「見える」ように(可視化)することで、互いに刺激し合い、学生個々人の英語学習を集団的な英語学習へと方向づけることができた。また、E-Pocketを利用する学生同士で自発的に話し合い清掃日を決めるなど学生による自主的な学習の場の管理運営が始まっている。英語科教育コースに英語学習コミュニティと英語学習文化が徐々に形成されているといえる。 ただし、以上の成果はあくまでも単年度の成果である。このプロジェクトの主目的である英語科教育コースの英語学習コミュニティの創造には、これらの成果がコース学習文化として先輩から後輩へ、維持・継承され、さらには今以上に学生が自主的・自発的に学びの共同体と文化を発展させていくように支援していく必要がある。また、上記成果(1)(2)(3)の波及効果として、形成された英語学習コミュニティが(a)英語コース入学者のための補償教育の場、(b)英語コース学生の就職支援の場、(c)英語コース長期履修生の基礎英語力支援の場、そしてさらには、(d)全学的英語学習文化の構築のための基礎的資料を得る場、として機能していくと考えられる。	

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
 2. 概要については、800字程度にまとめること。
 3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
 4. なるべくパソコン等で作成願います。